

好酸球性副鼻腔炎の QOL 調査と QOL に基づいた治療ゴールの設定

1. 研究の対象

研究機関の長の実施許可日～2030 年 3 月に当院を受診した次の基準を満たす方

- 1) 年齢が 20 歳以上の患者
- 2) 性別：不問
- 3) 入院/外来：外来のみ
- 4) 耳鼻咽喉科専門医によって JESREC の診断基準に基づき好酸球性副鼻腔炎と診断された患者方

2. 研究目的・方法

好酸球性副鼻腔炎の統一された治療ゴールを設定することで、今後治療方法の選択肢が増えていく中で医師と患者さんが治療の方向性を共有し、どのような治療を行うべきかを明確にすることができます。現在、鼻副鼻腔疾患をお持ちの患者さんの自覚症状と QOL に関するアンケート調査には世界的に Sino-Nasal Outcome Test (SNOT-22) が用いられています。日本語版も作成されその妥当性も示されているものの、22 項目からなる問診表であることから日常臨床で用いることは非常に困難です。多忙な外来診療でも無理なく行えるように、少ない項目で簡便に患者さんの状態を評価することができる Sinus Control Test (SCoT) スコアは、この課題を解決するために SNOT-22 の中から臨床的に重要な項目のうち 4～5 項目を選出して作成します。SCoT スコアは、症状の維持、悪化を数量的に評価できるようになり治療ゴールの設定を明確にすることができます。

研究期間：研究機関の長の実施許可日～2030 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる情報の種類

情報：病歴、年齢、性別、血液検査、呼吸機能検査、病理所見、基準級力検査、アンケート等

4. 外部への試料・情報の提供

外部へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当機関研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

(利用する者の範囲)

研究代表機関：福井大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 藤枝 重治

共同研究機関：

金沢大学 耳鼻咽喉科 吉崎智一

広島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 竹野幸夫

香川大学 耳鼻咽喉科 秋山貢佐

国際医療福祉大学 耳鼻咽喉科 岡野光博

三重大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 小林正佳

滋賀医科大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 戸嶋一郎

自治医科大学附属さいたま医療センター 耳鼻咽喉科 吉田尚弘

順天堂大学 耳鼻咽喉科 中村真浩

昭和医科大学 耳鼻咽喉科 平野康次郎

大阪大学医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 津田 武

東京大学 耳鼻咽喉科 近藤健二

東北医科薬科大学 耳鼻咽喉科 太田伸男

富山大学 耳鼻咽喉科 森田由香

兵庫医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 都築建三

北海道大学 耳鼻咽喉科 中丸裕爾

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんにご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

研究責任者 津田 武

大阪府吹田市山田丘 2-2 電話番号:06-6879-3951